

犬山市 フューチャーセッション SEASON 2

FUTURE SESSION @INUYAMA



犬山市フューチャーセッション 2018～ >>> 集まったメンバーが立場を超えて自由に語り合い、対話から価値を生み出す「創造的な語り場」。今年度は、レギュラーセッションに加え、キャンプ、アウトリーチ、ビジネスコラボなど、参加者といっしょに企画しながら様々な試行に挑戦します！

「名城大学社会連携ゾーン shake へGO！」

7

プログラム

1. 自己紹介～自由見学
2. ゲストトーク
3. セッション「フロイデに生かせそうなコト、モノは？」
4. ハーベスト～対話カフェ
@MU GARDEN TERRACE

新年最初の「フューチャーセッション（以下FS）」は、お出かけミーティング。2016年4月、名城大学ナゴヤドーム前キャンパス内に設立した「社会連携ゾーン shake」におじゃまして、shake 立ち上げから現在の運営まで担われている山本さんにお話を伺いました。そのあと、4班に分かれて犬山の「フロイデに生かせそうなコト、モノ」について考え、学内のカフェレストランに場所を移動して対話 & 交流。参加者は、事務局スタッフを含めて18名でした。

1 ゲストトーク「社会連携センターを地域と大学の活性化エンジンに」

山本 剛毅（ごうき）さん（名城大学社会連携センター）



PLATのミッションとビジョン

社会連携センターPLATは2017年4月、名城大学が自治体・企業・NPO等と大学をつなぐためにつくった新しい部署。単に社会貢献するだけでなく教育・研究・学生生活動につなげ学生に還元していくことをミッションにしています。

PLATをつくるにあたり、官民連携の窓口となる共創推進室をつくった横浜市に相談に行った時、「大学は行政よりも柔軟に企業とNPO、行政のつなぎ役になれる」と言われて勇気をもらいました。PLATはハブ的な存在を目指し、「共創が生まれやすい社会づくりを実現するために社会連携センターを運営していく」ことをビジョンとして掲げました。「とりえず社会連携をやっておこう」でやっている、いろんなニーズに、何のためにやっているんだ？と疲れてくる。だから「私たちはこのためにやっている」と視座を一段高くしてやっています。

PLATのコンセプト

PLATのコンセプトは「Community Engine」。「中部地区の

企画会議室」のようなものになりたい。具体的に何をしているかということ、「対話」をしています。最初から「名城大学にとって価値あることをやりましょう！」では、皆さん逃げていく。まずは考えていることをお互いに出し合って、ゆるやかなつながりをつくりながら、相談に来た人の熱量とこちらの熱量を育てながら、何か「コト」を起こしていく。

社会連携事業を生み出す相談窓口として、学内・外の相談をオープンに受け、ていねいに拾って行って、たくさんの依頼を僕らが翻訳して、どうしたら学生の学びの場につながるのか？を考えて、セミナーやイベント、プロジェクトにしています。

大学と社会をつなぐ「縁側」的な場所=shake

shakeは、大学と社会をつなぐ「縁側」的な共創空間です。単につながろうと言ってもハードルがあるので、コワーキング的な場所を学内につくろうというのが源流。いろんな人が交流しやすく、出会いが生まれやすい、プロジェクトが発生しやすい場にしたいという思いがありました。

shakeの場づくりは「Make Space」という本を参考にしま

した。ダイアログスペースは、ブロックをいろんな形に組み替えて使える対話スペース。ワーキングスペースの机はホワイトボードになります。スタッキングの椅子は、座りにくいか、背もたれが欲しいという声もありますが、ここでは使いやすさよりクリエイティブな雰囲気を重視しています。

shakeの最大の特徴は、「無人で運営」していること。誰もが自由に使える場所を、どうリスク管理するか。例えば、ビールを持ったおじさんが入ってきたり、地域のおじいちゃんおばあちゃんが単にくつろぐような場になったりしたらどうするか？

誰もが自由に使えると言いつつ、地域で何かをやりたい人、人とつながって活動をしたい方々がメインターゲット。集めた本も雰囲気づくりの1つになっています。開催するワークショップで、私たちの目指す姿がわかってもらえ、ある種の「抑止力」になっています。

また、平日夜の7時から9時は、エネルギーで素敵な社会人が運営している「名古屋フューチャーセンター」が日直をしてくれています。これは、shakeのオープニングイベントに出た「ここで何かやってみたい」という声と私たちの「平日の夜に誰か一人でもいてくれたら」という困りごとからスタート。巻き込みたい人を日直会（食事会）に誘って、どんなことをやれるかみんなに書いてもらって、スケジュールを埋めていった。その時から平日は毎日、何かしら交流会が開催されています。日直は、昨年12月の時点で145人になっています。

「フューチャーセンター」と言っても、手芸教室だったり、耳つぼだったり…こういう範囲だけ、と限定せずに、雰囲気をしながら、みんなでやっていこうねと。また、「何人集まったか？」が大事じゃない、参加者が誰も集まらなかったら本を読んでいてもらえばいい、とハードルを下げた形にしています。

対話から生まれたアクション

PLATを設立してから、去年の12月までのトータル相談件数が326件。そのうちコトが起こったのは178件です。

西尾青年会議所が学生と一緒にまちづくりを考えるワークショップや、愛知県が社会人と学生と一緒にアジア競技大会を活性化するためのアイデアを考えるワークショップを開催したり、名古屋市が東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンとしての受け入れを決めたカナダの車いすバスケットボールチームの事前キャンプを学生がお手伝いしたり、地元企業、ローソンと商品開発をしたり。また、「ファシリテーションを学生に教えてあげたい」という方や「AIの勉強会をやりたい」という方の声から勉強会を開催。企業の枠を越えて活動している若手サミットと名古屋市との連携事業は、学生が熱量の高い大人達と出会う場、デザインシンキングなどの思考法を学ぶいい機会になっています。

地域と大学は運命共同体。いい地域にはいい大学があるし、いい大学があればいい地域になると思って、頑張っていきたいと思っています。

2 セッション「フロイデに生かせそうなコト、モノは？」

4つのグループに分かれて、shakeの見学や、山本さんのお話を踏まえて、フロイデのリニューアル、犬山でのつながる場づくりにどんなことが活かせるか、を考えました。

壁がない (見通しがいい)	元気になる カラーリング	本棚 本を読む場所	創造力を かきたてる本 坐れる本棚	
オシャレな 雰囲気	プロジェクト ルーム	コワーキング スペース		
↑プロジェクト進行中に継続して使える貸スペース				
フロイデと言えば ○○という特徴 犬山らしい運営	親身なって マッチングできる 担当者	集らなくても OK!という 考え方	相談に乗って もらえる場	飲食 OK
賑わい のある場 のびのびできる	パートナー 団体制度	日直制	愛称 場の名前	学び合いの フォーラム や講座企画
気楽に誰でも 入れる空間				

ひとことアンケートより
シェイクのあり方はフロイデの方向性に非常に参考になった／このような場があることで物や人が集まり、良いグループができる仕掛けづくりがすごい／楽しく(スタッフが)ムリしない。いろんな人を巻き込む仕掛け ほか

犬山市役所 地域安全課 (担当: 田原)
☎ 0568-44-0346
Mail: 010400@city.inuyama.lg.jp